

自らの手で形にした 「半農半エネ」が 大きな希望

たかはし そうへい
高橋 荘平

一般社団法人えこえね南相馬研究機構 代表理事

昭和51年（1976）、南相馬市生まれ。

25歳でUターンし、実家の病院を手伝いながら南相馬で活動。

震災時は、地元の仲間とともに、市民の力による線量測定や除染作業に取り組む。

2012年、再生可能エネルギー研究会を立ち上げ、翌年法人化。

市民とともに省エネ、新エネによるまちづくりを目指す。

震災時、地元に残った方の不安解消、安全性担保のために線量測定や除染を行いました。避難するか残るか自己判断で決めるという地域で、後悔しない選択をするためには判断材料が必要でした。その活動で将来への希望が欲しいという思いが強くなり、震災と原発事故の影響を受けた農地の再生を再生可能エネルギーと農業のコラボレーションで乗り越える挑戦を開始。農地で営農しながら太陽光発電も行うという、全国でも事例の少ない取り組みです。思いを共有した仲間たちと、雑種地を耕して単管パイプを組み、パネルを設置。このパイロットプラントで可能性を模索しながら農地法クリアを目指し、「南相馬ソーラービレッジ」が完成したのは2015年の10月。現在8か所の発電所が稼働を始めるに至っています。「農業ができないかもしれない」という絶望から、仲間たちと共に「半農半エネ」を形にしたことは大きな希望です。震災を通じて人の底力を見ました。大変だし、犠牲もたくさんあって悲しかったけど、この10年で私たちは新しい希望を得ています。多くの支援に個別に恩返しはできませんが、街が新たなチャレンジと共に復興していくことで支援してよかったと感じてもらえると嬉しいです。



「ソーラーシェアリング」で、発電だけでなく、土の水分量が安定する効果も期待できる